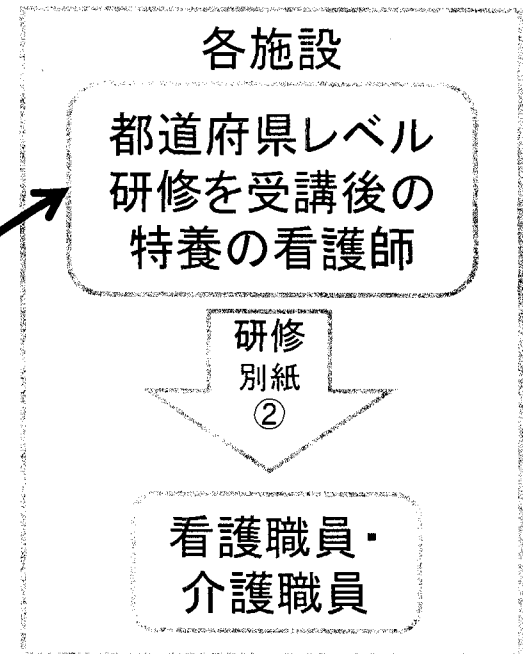
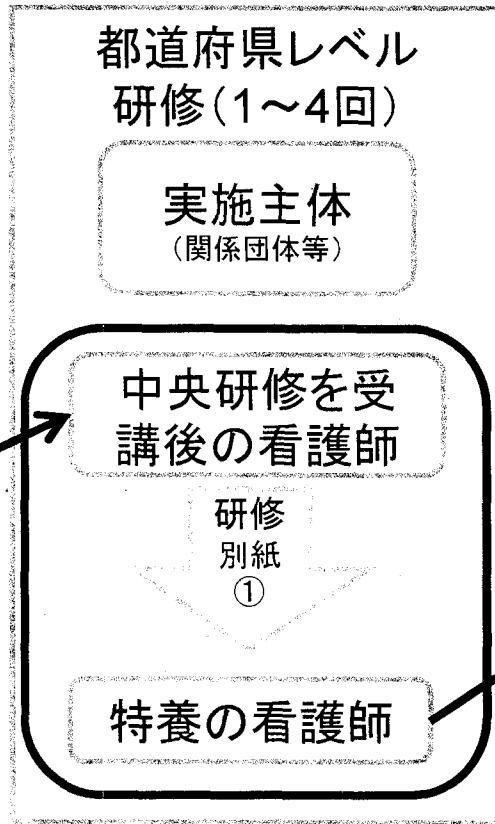
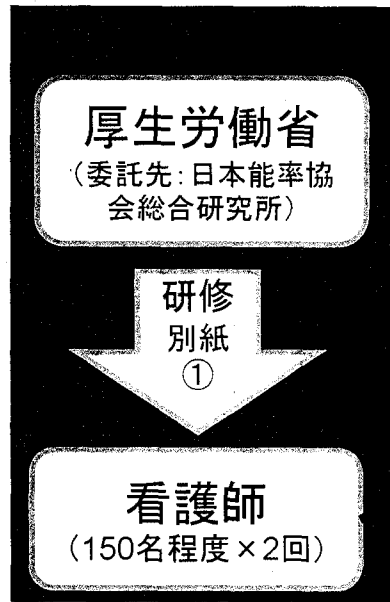


平成22年度 特別養護老人ホームにおける 看護職員と介護職員によるケア連携協働のための研修事業について



- 中央研修において、都道府県レベル研修で講師となる看護師を養成。
- 看護師は、各都道府県5(県内施設数にあわせて5~11)名程度で、150名程度×2回で計300名程度。
- 研修プログラムは、2日間(12時間)で別紙①参照。
- 国庫補助事業(旅費等は除く)

- 都道府県レベル研修において、各施設で講師となる看護師を養成。
- 都道府県レベル研修の開催回数は施設(受講者)数にあわせて調整。
- 実施主体は、関係団体等に協力要請。
- 国からの補助金なし

第1回 6/28・29

第2回 8/20・21

夏目途

平成22年度特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員によるケア連携協働のための研修事業

中央研修プログラム（看護師対象）

2日間（12時間）

1日目

時刻	テーマ	時間	方法	内容
11:00 ～11:30	特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員によるケア連携協働の在り方	30分	講義	<ul style="list-style-type: none"> 特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員の連携によるケアの在り方に関する取りまとめ 特別養護老人ホームにおけるたんの吸引等の取扱いについて 平成22年度特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員のケア連携協働のための研修事業について
11:30 ～12:30	高齢者及び医療的ケアに関する倫理、法規及び多職種連携	60分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者介護の理念 ○高齢者介護に関する倫理、法規 <ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉法 ・介護保険法 ○医療的ケアに関する倫理、法規 <ul style="list-style-type: none"> ・医師法第十七条 ・保健師助産師看護師法第三条 ・医師法第十七条に関わる通知 ○特別養護老人ホームにおけるケアと多職種連携
食事休憩（60分）				
13:30 ～14:30	利用者へ適切なケアを提供するための具体的な取り組み	60分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ○施設内での取り組みの実際（体制整備、研修の実施等） ○根拠に基づいた研修指導と連携ケア ○ヒヤリハット・事故報告 ○事例検討（施設内委員会）の実施方法
休憩（10分）				
14:40 ～16:10	心身機能の加齢性変化と日常生活への影響	90分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ○心身機能の老化の特徴 ○身体機能、知的・認知機能、精神的機能の加齢性変化と日常生活への影響 ○身体機能、精神機能の低下の予防
	呼吸器系のしくみと働き		講義	○呼吸器系の形態・機能
	喀痰を生じる疾患や病態		講義	<ul style="list-style-type: none"> ○呼吸に関する症状に関する理解 <ul style="list-style-type: none"> ・①呼吸困難 ②喘鳴 ③喀痰 ④咳嗽 ・問診のポイント
	口腔内吸引の技術及び関連するケア		講義	<ul style="list-style-type: none"> ○吸引が必要な高齢者へのケア <ul style="list-style-type: none"> ①高齢者の日常生活に必要なケア ②掛たんケア：できる限り吸引をしなくてもすむようにケアを組み立てる ③口腔ケア、環境整備（気温、湿度）、感染症対策、清潔、不潔の考え方 ④消毒（消毒薬の副作用を含む）、滅菌技術 ○吸引の技術 <ul style="list-style-type: none"> ①吸引の準備（必要物品の管理、吸引器のしくみ、吸引器のメンテナンス、作動状態の確認等） ②吸引が必要な者の観察（実施前・中・後）、吸引の実際（口腔内吸引） ③吸引後の後片付け、吸引に伴う記録、報告
休憩（15分）				
16:25 ～18:25	口腔内吸引の技術及び関連するケアの指導	120分	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD映像の視聴学習 ・看護職員による吸引の実際を見学 ・吸引に必要な器機の操作 ・研修者同士で口腔内吸引 ・消毒、医療廃棄物の処理 ・口腔ケア

2日目

時刻	テーマ	時間	方法	内容
9:20 ~10:20	研修における人材育成	60分	講義 演習	・よい研修のための条件、教え方 ・状況に応じた指導について ・看護師から介護職員への指導のポイント
休憩(10分)				
10:30 ~12:00	消化器系のしくみと働き	90分	講義	○消化器系の形態・機能
	経管栄養が必要となる疾患や病態		講義	○嚥下障害に関する理解 ①高齢者の嚥下に関する形態的特徴 ②嚥下障害を疑う症状 ③嚥下障害をおこす主な疾患 ④対処方法 ○関連する症状(下痢・便秘)
	経管栄養の技術及び関連するケア		講義	○経管栄養が必要な高齢者へのケア ①高齢者の日常生活に必要なケア (義歯の取扱い及び精神面を含む) ②口腔ケア、胃ろう挿入部のケア、環境整備(気温、湿度) ③感染症対策、消毒(消毒薬の副作用を含む) ○胃ろうによる経管栄養の技術 ①胃ろうについて(種類、構造、利点、欠点等) ②胃ろうによる経管栄養の準備 (必要物品の管理、経管栄養剤の管理(食品・医薬品)等) ③胃ろうによる経管栄養が必要な者の観察(実施前・中・後) ④胃ろうによる経管栄養の実際 ⑤胃ろうによる経管栄養後の後片付け ⑥胃ろうによる経管栄養に伴う記録、報告
食事休憩(60分)				
13:00 ~15:00	胃ろうによる経管栄養の技術及び関連するケアの指導	120分	演習	・DVD映像の視聴学習 ・看護職員による経管栄養の実際を見学 ・経管栄養に関する用具の取扱い ・消毒、医療廃棄物の処理
休憩(10分)				
15:10 ~16:10	安全管理体制とリスクマネジメント	60分	講義	○高齢者介護施設における感染対策 ○社会福祉施設におけるリスクマネジメント ○吸引・経管栄養による急変・事故発生時の対応 ○救急蘇生法
16:10~ 16:40	まとめ	30分	討議	参加者による意見交換

平成22年度特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員によるケア連携協働のための研修事業

施設内研修プログラム（介護職員対象）

14時間以上

テーマ	時間	方法	内容
特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員によるケア連携協働の在り方	30分	講義	・特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員の連携によるケアの在り方に関する取りまとめ ・特別養護老人ホームにおけるたんの吸引等の取扱いについて ・平成22年度特別養護老人ホームにおける看護職員と介護職員のケア連携協働のための研修事業について
高齢者及び医療的ケアに関する倫理、法規及び多職種連携	60分	講義	○高齢者介護の理念 ○高齢者介護に関する倫理、法規 ・老人福祉法 ・介護保険法 ○医療的ケアに関する倫理、法規 ・医師法第十七条 ・保健師助産師看護師法第三十一条 ・医師法第十七条に関する通知 ○特別養護老人ホームにおけるケアと多職種連携
利用者へ適切なケアを提供するための具体的な取り組み	30分	講義	○施設内での取り組みの実際（体制整備、研修の実施等） ○ヒヤリハット・事故報告 ○事例検討（施設内委員会）の実施方法
心身機能の加齢性変化と日常生活への影響	60分	講義	○心身機能の老化の特徴 ○身体機能、知的・認知機能、精神的機能の加齢性変化と日常生活への影響 ○身体機能、精神機能の低下の予防
呼吸器系のしくみと働き	60分	講義	○呼吸器系の形態・機能
喀痰を生じる疾患や病態	60分	講義	○呼吸に関する症状に関する理解 ①呼吸困難 ②喘鳴 ③喀痰 ④咳嗽 ・問診のポイント
口腔内吸引の技術及び関連するケア	60分	講義	○吸引が必要な高齢者へのケア ①高齢者の日常生活に必要なケア ②排たんケア：できる限り吸引をしなくてもすむようにケアを組み立てる ③口腔ケア、環境整備（気温、湿度）、感染症対策、清潔、不潔の考え方 ④消毒（消毒薬の副作用を含む）、滅菌技術 ○吸引の技術 ①吸引の準備（必要物品の管理、吸引器のしくみ、吸引器のメンテナンス、作動状態の確認等） ②吸引が必要な者の観察（実施前・中・後）、吸引の実際（口腔内吸引） ③吸引後の後片付け、吸引に伴う記録、報告
口腔内吸引の技術及び関連するケアの指導	40分×3回以上 （習熟度にあわせて）	演習・実習	・DVD映像の視聴学習 ・看護職員による吸引の実際を見学 ・吸引に必要な器械の操作 ・研修者同士で口腔内吸引 ・消毒、医療廃棄物の処理 ・口腔ケア
消化器系のしくみと働き	60分	講義	○消化器系の形態・機能
経管栄養が必要となる疾患や病態	60分	講義	○嚥下障害に関する理解 ①高齢者の嚥下に関する形態的特徴 ②嚥下障害を疑う症状 ③嚥下障害をおこす主な疾患 ④対処方法 ○関連する症状（下痢・便秘）
経管栄養の技術及び関連するケア	60分	講義	○経管栄養が必要な高齢者へのケア ①高齢者の日常生活に必要なケア （義歯の取扱い及び精神面を含む） ②口腔ケア、胃ろう挿入部のケア、環境整備（気温、湿度） ③感染症対策、消毒（消毒薬の副作用を含む） ○胃ろうによる経管栄養の技術 ①胃ろうについて（種類、構造、利点、欠点等） ②胃ろうによる経管栄養の準備 （必要物品の管理、経管栄養剤の管理（食品・医薬品）等） ③胃ろうによる経管栄養が必要な者の観察（実施前・中・後） ④胃ろうによる経管栄養の実際 ⑤胃ろうによる経管栄養後の後片付け ⑥胃ろうによる経管栄養に伴う記録、報告
胃ろうによる経管栄養の技術及び関連するケアの指導	40分×3回以上 （習熟度にあわせて）	演習・実習	・DVD映像の視聴学習 ・看護職員による経管栄養の実際を見学 ・経管栄養に関する用具の取扱い ・消毒、医療廃棄物の処理
安全管理体制とリスクマネジメント	60分	講義	○高齢者介護施設における感染対策 ○社会福祉施設におけるリスクマネジメント ○吸引・経管栄養による急変・事故発生時の対応 ○救急蘇生法